

April 2021

令和3年4月

ハワイ移民資料館

仁保島村

〒7340026 広島市南区仁保三丁目17-6

TEL&FAX 0822866331

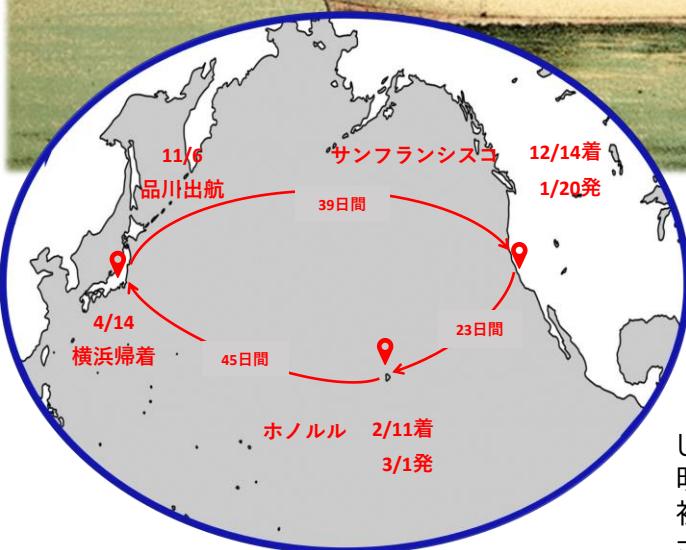
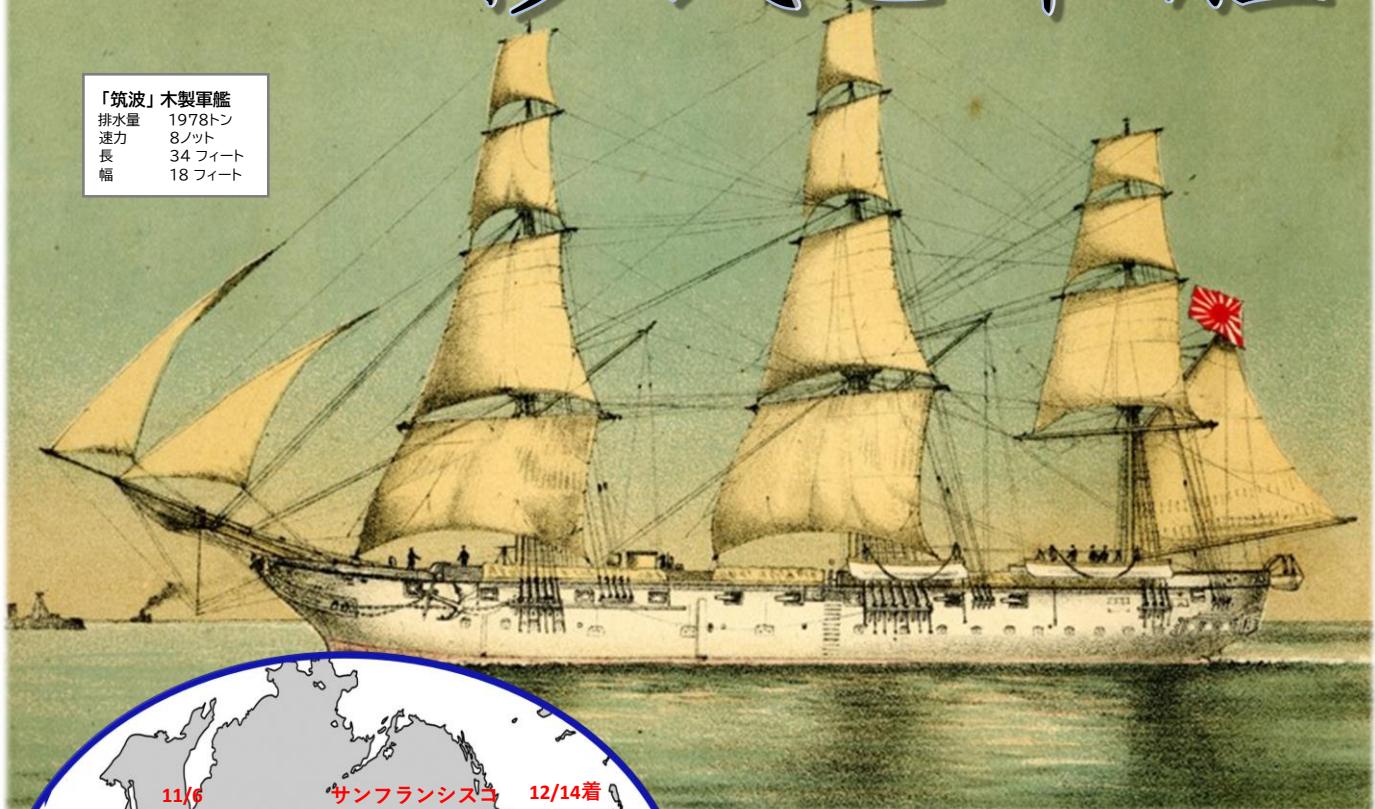
<https://hawaiiniho.com>
kawasaki1885@yahoo.co.jp



史実発掘

移民と軍艦

「筑波」木製軍艦
排水量 1978トン
速力 8ノット
長幅 34 フィート
18 フィート



第1回海軍練習航海航程図
1875(明治8)年11月6日～1876(明治9)年4月14日

軍艦「筑波」

アメリカ・ハワイを訪問

軍艦14隻、運送船4隻。1872(明治5)年兵部省から独立した海軍省が保有する艦船である。この中の一隻「筑波」は、明治政府が1871(明治4)年にイギリス商人から購入した最初の軍艦で、そのほかの大部分は徳川幕府や諸藩から引き渡されたものであった。

1874(明治7)年台湾出兵により、海軍の兵力、艦船など軍備力の不足を痛感した政府は、翌年イギリスに「扶桑」「金剛」「比叡」の3隻を発注し軍備の近代化を進めた。

こうした中、1875(明治8)年11月6日海軍兵学寮の生徒66人を乗せた「筑波」はサンフランシスコ・ホノルルの遠洋実習航海に出航した。復路寄港したホノルルでは、艦長以下、士官たちは国賓並のもてなしを受け、新政府が誇る軍艦の威容に感動したカラカウア王が乗船を希望するなど両国の距離は一気に縮まった。

それは、ハワイ日本人移民史におけるもうひとつの幕開けでもあった。

報告書「筑波」艦長 海軍中佐 伊藤雋吉

1876(明治9)年2月16日 ハワイ国王に謁見

わが国のハワイ領事心得であるI.B.ディクソンの案内により、小官以下10人は本日12時に布哇国国王陛下と謁見した。宮殿に向かう中庭に於いて王国樂隊の吹奏と親衛隊の栄誉礼に迎えられた。

日本帝国 領事心得ディクソンの紹介スピーチ

日本とハワイ国間に通商関係はありますが両国人の交流は無きに等しく、今回の軍艦「筑波」の来航は格別なものがあります。軍艦「咸臨丸」が寄港して早や16年、その間に日本は急速な発展を遂げ文明國の仲間入りを果たさんとしています。その実力は「筑波」が太平洋を横断することを見ても明らかです。伊藤艦長はハワイ國の歓待を深謝すると共に両国間が一層緊密になることに尽力すると誓われ、殿下に謁見の機会を得られたことを光榮に思うと申されています。

カラカウア王のお言葉

予は日本軍艦「筑波」艦長伊藤中佐を始めとする士官諸君を歓迎する機会を得られたことに感謝する。今回の來訪を新たな機縁として、わがハワイ国と、國富み人口多き日本帝国との友好関係がさらに深まることを望む。日本はわが国に最も近く、祖先をたどればわが国民と類似していることにも不思議な縁を感じる。日本からの移民受け入れが実現すれば、わが國の砂糖産業の発展と、日本の人口過剰の解決、これらは両国間の国益と商業の発展に寄与するものと確信する。「筑波」の來訪は、明るい未来を開いてくれた。また、今朝の内務大臣官邸構内火災には、筑波から遅く防火隊が派遣され大事に至らなかった。この場を借りて厚くお礼申し上げる。

※ハワイ国の出席者 外務・大蔵・司法大臣、カウアイ島総督ほか10人 通訳 石村市五郎 元年者

※ I.B.ディクソン 1875(明治8)年11月～1877(明治10)年2月までハワイ駐在米国公使の推挙により明治政府が日本帝国領事心得(代理)として任命した

2月25日 カラカウア王ご来艦

午前 10時	艦に満艦飾を施し中央マストにハワイ国旗を上げ、歓迎の準備が完了。
10時 30分	先首に王旗を掲げた端舟(たんしゅう) [*] 1隻と小蒸気船1隻を桟橋まで陛下のお迎えに参上させる。 * 端舟 機関または帆を使用しない舟。カッター。
11時	陛下と隨員ら8人が乗艦されると同時に端舟の王旗を中央マストの国旗と掛け替え、礼砲21発を放ち、歓迎の意を示す。陛下をキャビンにご案内し、酒菓をお勧めする。
11時 30分	陛下のご希望により水兵による小銃操練を披露、機関室をご覧になった後、甲板に上がり、火炎操練を見学され再度キャビンに戻りご接待。
午後 0時 19分	王旗を端舟に戻す。陛下が乗船されると祝砲21発を打ち、お見送りをした。
1時 30分	満艦飾を収納する。



ハワイ王国 カラカウア王

絵画 朝野新聞
1884(明治17)年11月18日
国立国会図書館蔵

ホノルルでは国王陛下に謁見して艦筑波にも
ご来艦戴き、また重要閣僚とも親しく談話いた
しました。

その内容の多くは「ハワイの人口が衰退が深
刻な問題である。日本から多くの移民を招くこ
とができるば、わが國の産業経済も活発になり、
是非とも実現させていただきたい」というもの
でした。



国立公文書館蔵



筑波艦長
伊藤雋吉

伊藤雋吉から「ハワイ王国の実情と日本人移
民の要望」の上申を受けた海軍大輔川村純義
は、報告書にこの上申書を添えて右大臣三條
に提出し、國政の判断を仰ぐ。



国立公文書館蔵

新聞の報道

士官教育の練習航海と親善を目的とした日本の軍艦「筑波」がサンフランシスコに入港した。装備はわが国の軍艦に勝るとも劣らず、アメリカン・スタイルの青い海軍服を着た士官候補生は礼儀正しく清々しい。

日本は新しい政治体制のもと、国際法を理解して外国との円滑な関係を築く一方、国民には宗教的信条を保障し、教育・郵便・貨幣制度を整え、陸海軍を組織して防衛力を高めた。若者を米欧に留学させ、科学・芸術・言語・法律を学ばせるなど急速に発展している。

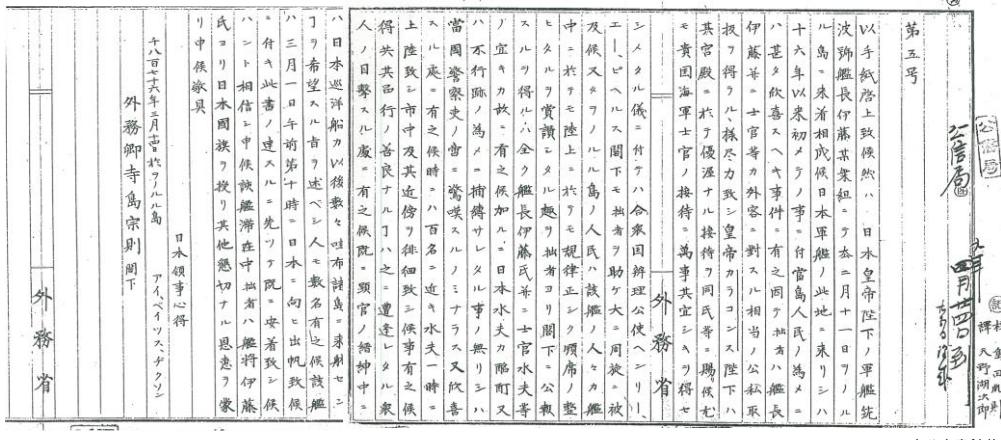
艦内を見学したが、生徒の航海日誌には日英両語を併記して英文は巧みで誤りがない。見慣れぬ外国人の入室にも臆することなく、堂々と紳士の如き振る舞い、皆が知識階級の顔つきをしている。

同乗している英國人教師オースチンによれば、「日本の海軍士官の能力と生活態度は英國士官と同程度、若しくはそれ以上」とのこと。

16年前に来航した「咸臨丸」の乗組員の日本着姿を記憶しているサンフランシスコの人々は、颯爽とした軍服姿と「筑波」の威容に驚きと興奮を隠さなかった。

ニューヨーク・デイリーヘラルド
サンフランシスコ・クロニクル
広瀬彦太 大海軍発展秘史

1875年12月15日
1875年12月21日
の要約



国立公文書館蔵

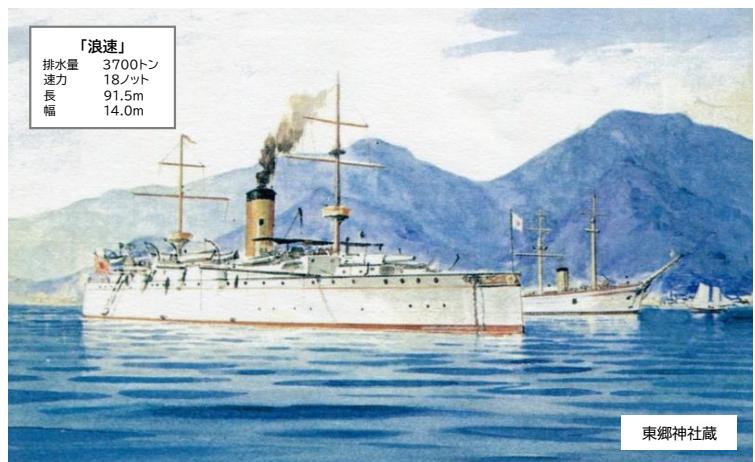
1893(明治26)年2月23日・12月2日 軍艦「浪速」

なにわ

ハワイ王国の政変を心配した明治政府は、外務省参事官秋月左都夫に軍艦「浪速」に同乗して状況査察を命じた。12月23日、秋月は駐ハワイ総領事藤井三郎・艦長東郷平八郎らと情報分析にあたり、「日本人移民の生活には直接的影響はない」と判断して帰港した。

翌年1月17日、臨時政府発足、1周年記念日に不穏な動きが発生した時の対応策として、政府は再び「浪速」に派遣を命じた。

臨時政府は到着した東郷艦長に「艦を満艦飾にして、正午には礼砲を発してほしい」と申し入れをしたが、東郷はハワイ王国の独立を侵すとして断固拒絶。臨時政府に中立的立場を示し、日本人移民の安全を確認して4月2日ホノルル港を後にした。



東郷神社蔵

1906(明治39)年9月26日 練習艦「姉川」

あねかわ

「姉川」の前身は、日本帝国海軍が日露戦争の旅順海戦で沈没したロシア義勇隊所属の運送船を、引き揚げ後、軍艦に改装した。

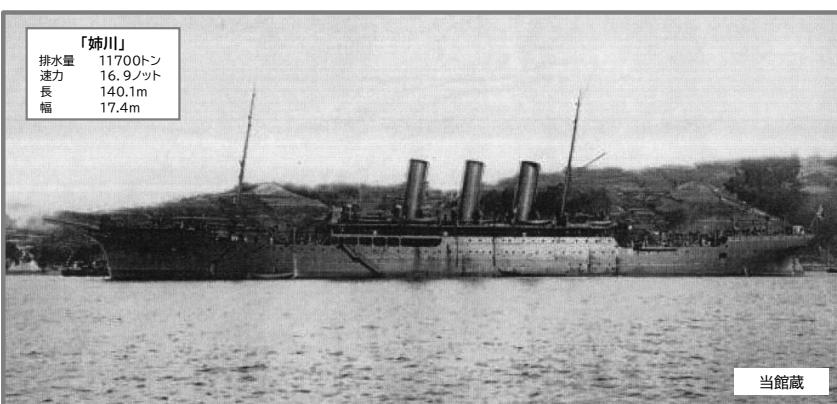
排水量1万1700トン・船長467尺・速力16.9ノット・定員439人の巨艦である。

『姉川来る』の報せに力カアコの日本人漁民たちは40隻あまりの漁船を満艦飾にして港外まで出迎え、「姉川」はこれに登舷礼で答え、花房艦長は漁民たちに乗艦の特別許可を与えた。この感激の熱気は9月30日・10月1日の大歓迎会へと続き、乗組員590人との交歓交流は大賑わいであった。

6日午後には艦内に数百人を招いてアットホーム[※]を催し、同日ヒロに向けて出港。13日にはマウイ島のカフルイ港に寄港した後、再びホノルル港に寄港、送別の大聲援を受け、日本帰港の途についた。

日清・日露の戦勝は、在留日本人に民族意識を強く焼き付けたばかりか、プランテーションで働く日本人に誇りと自信を持たせ、先住労働者の清国人(当時の呼称)より受けたいた圧迫感をはね返し、その上、日本人社会の発展のエネルギーとなつた。

※アットホーム 軍艦に招待してもてなすこと



來る東郷たも上村なる最多の優秀な幹部
我が帝國練習艦姉川は、令朝を以て當地にて
居またり。我々在留六萬の同胞は甚て其御
の赤誠を捧げて、謹んで之れを歡迎す。
我等實に故郷と距る鰐波三千里的異域に在
り、自ら舟も海外に渡ける同胞數萬車の束縛レ
仕任せ。幸ひに其今日ある所以のもの、固
も各自の勤勉と努力とに依るべ難く、其實
我等の貴從に大實力の存する由ゆらん
わらず。一大實力とは何ぞ、乃ち我が帝國
世界に於ける實力を指して云ふなり。
意ふに我が名譽なる帝國海軍は、憚かに其
力の最大なるものにて、近く夫の日露の
役に於て、最も世界の人士と競衡し、單に
當の敵たりを露滅のみならず、列強をして
や

資料① やまと新聞1906(明治39)年9月26日

1909(明治42)年4月1日 練習艦隊「阿蘇」「宗谷」

親日派と排日派に分裂した ハワイの上院と下院議会

1909(明治42)年2月中旬開催のハワイ議会は荒れ模様となった。

2月18日 開会冒頭にマウイ島選出のコエロ上院議員は、日本人が独占する漁業者を締め出すため「海上3マイル以内の漁業従事者はアメリカ市民権を有する者に限る」との法案を上院に提出した。検事総長は日米条約に違反するとして反対を表明、英字新聞もこぞって反対論を展開したが、わずか1票差で成立した。下院では「魚価の騰貴を招き経済的損失が大きい」として否決、同法案は廃案となった。

2月19日 ダウシット下院議員は「日米親交の維持をハワイ議会の意志」として、アメリカ議会に表明しようと下院に提出、法案は満場一致で可決した。ところがカリフォルニア州マッカーシー議員から「排日法は中央政府とカリフォルニア議会間の問題であり、これはハワイ議会の越権行為である」と横やりが入り、結局ハワイ上院がこれに呼応して法案は握りつぶされた。

4月 1日 ハワイ議議會上院と下院が親日、排日論争で揺れ動く中、練習艦隊「阿蘇」「宗谷」がホノルル港に入港。

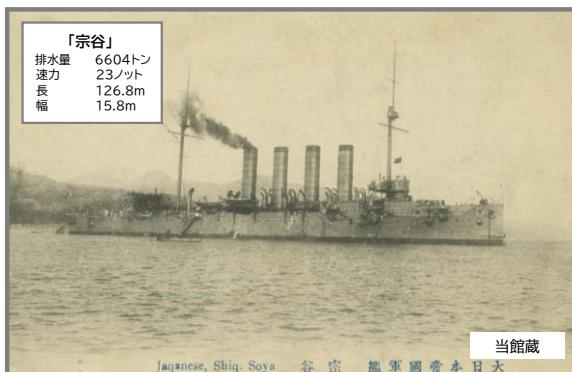
4月 5日 下院は、日本帝国練習艦隊歓迎決議案を採択した。「世界最大の海戦（日露戦争）に際し、東郷平八郎大将指揮の下で功績をあげた両艦の武人の来航を議員一同歓迎する。練習艦隊の来航は日米両国の親善関係を一層密なるものにすることを確信する。本決議文は日本帝国総領事を経て伊地知司令官に送る。日本万歳！」

こうした一連の出来事は、1906(明治39)年10月サンフランシスコ東洋人学童隔離事件に端を発した排日運動がハワイに押し寄せてきた結果である。

しかし、本土とハワイの相違点は①ハワイの日本人が白人労働者の仕事を浸食し、その賃金を押し下げるという脅威も全くなく、②土地を手に入れて農業生産を白人農業者に取って替わることもなく、③低賃金で真面目に働く日本人労働者の存在なくしてはプランテーション経営も見つかないと現実から、結果的にハワイの日本人排斥運動は大きなうねりとはならなかつた。特筆すべきは、農地はハワイ人と白人勢力が所有していたため、日本人労働者は農地の取得が困難で農業生産者とはなり得なかつたことにある。



當館藏



當館藏

The Pacific Commercial Advertiser

U. S. WEATHER BUREAU, April 1—Last 12 hours, Honolulu, 60°
Temperature, 60; Min., 58; Max., 68.

HONOLULU, HAWAII TERRITORY, THURSDAY, APRIL 6, 1916.

CHAMBERSBURG, PA.—July 5, 1916.

EDWARD TELL O'NEILL, 1916. FOR THE ST. LUCIA
ADVISOR NEWS, NO. 612, APRIL 1916.

VOL. XXX, NO. 402.

HOUSE PASSES WARM RESOLUTION OF WELCOME FOR JAPANESE SQUADRON

Election Law Bill Is Praise for Admiral and Passed on Second Reading in the Upper House.

There was plenty of work to fit the members of the House of Representatives yesterday morning, as they engaged in passing the budget, a bill to provide for the payment of \$100,000,000 in bonds and a resolution to the president concerning the Japanese fleet now lying at anchor in Hawaiian waters.

Admiral E. G. Dyer, commanding the Asiatic Fleet, had been invited to speak before the House by Senator George F. Hoar, and he did so, giving a full account of his work in the Philippines, China and Japan, and of the present condition of the Asiatic Fleet.

All the members of the upper house were present except Senator George F. Hoar, who was absent on account of his wife's illness.

Surveillance was exercised from time to time over the floor by the House Committee on Naval Affairs, which had been organized on Feb. 15, 1915, to consider all bills relating to the navy.

It was the third reading of the bill to provide for the payment of \$100,000,000 in bonds, and the second reading of the resolution concerning the Japanese fleet.

The bill was passed by a vote of 70 to 10.

The resolution was passed by a vote of 70 to 10.

The House adjourned at 12:30 P. M.

(Continued on Page Two.)

<div data-bbox="33

「帝国練習艦隊の来航」を一面全ページで報道
資料② パシフィック・コマーシャル・アドバタイザー1909(明治42)年4月6日



資料③ 日布時事 1909(明治42)年4月6日

4月5日在留日本人合同の歓迎大園遊会が開催された。会場のボーアズフィールドには洋食・ビール・果物などの屋台の店が並び、舞台では手品、芸妓の総踊りが披露された。広場では島々から参加した剣士と軍人との撃剣試合も行われ人々の目を惹いた。参加者は約7000人であった。



来航記念の絵葉書も
売り出された

1914(大正3)年10月21日 軍艦「肥前」

日英同盟条約を締結していたわが国は、1914(大正3)年8月4日、英國が歐州大戦(第一次世界大戦)に参加したことにより、同月23日ドイツに対して宣戦を布告した。

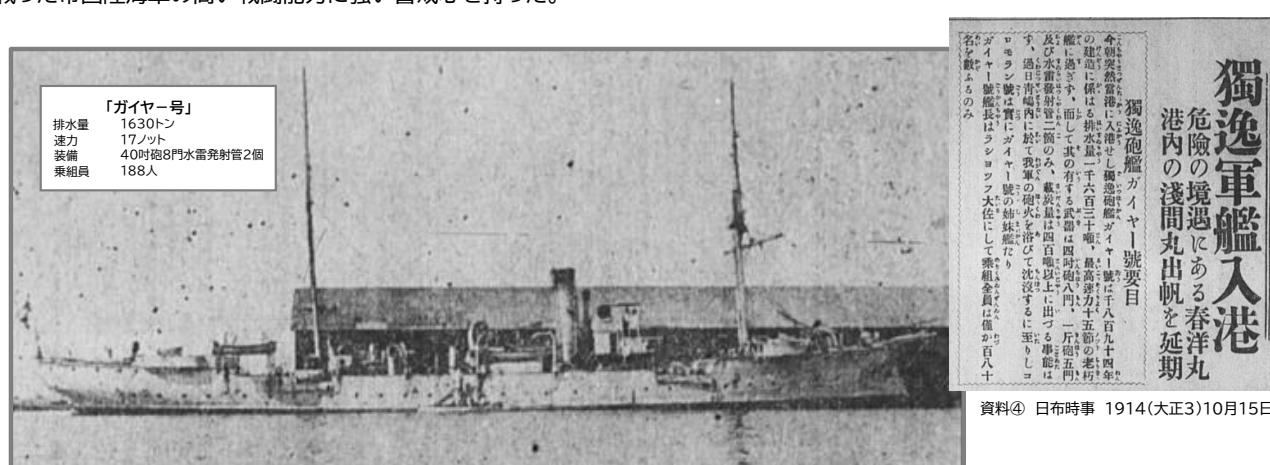
同年10月15日、帝国海軍は対独戦線を「青島方面」「太平洋方面」「布哇方面警備」「インド洋及びオーストラリア方面」「地中海方面」「ウラジオストック警備」の6方面に分ける作戦を立て艦船を配備し、ドイツの主要基地である青島を陸軍と共に3か月余りで陥落した。

同日、行き場を失った軍艦ガイヤー号が石炭補給船を従えてホノルル港に入港。日英両国領事はハワイ税関長に即刻退去を要請したが、「アメリカは中立国であり、24時間内の停泊は国際法上認められ、しかも修理と補給を目的としている。当職には退去命令を出す職務権限はない」として強制退去の措置は取られなかった。

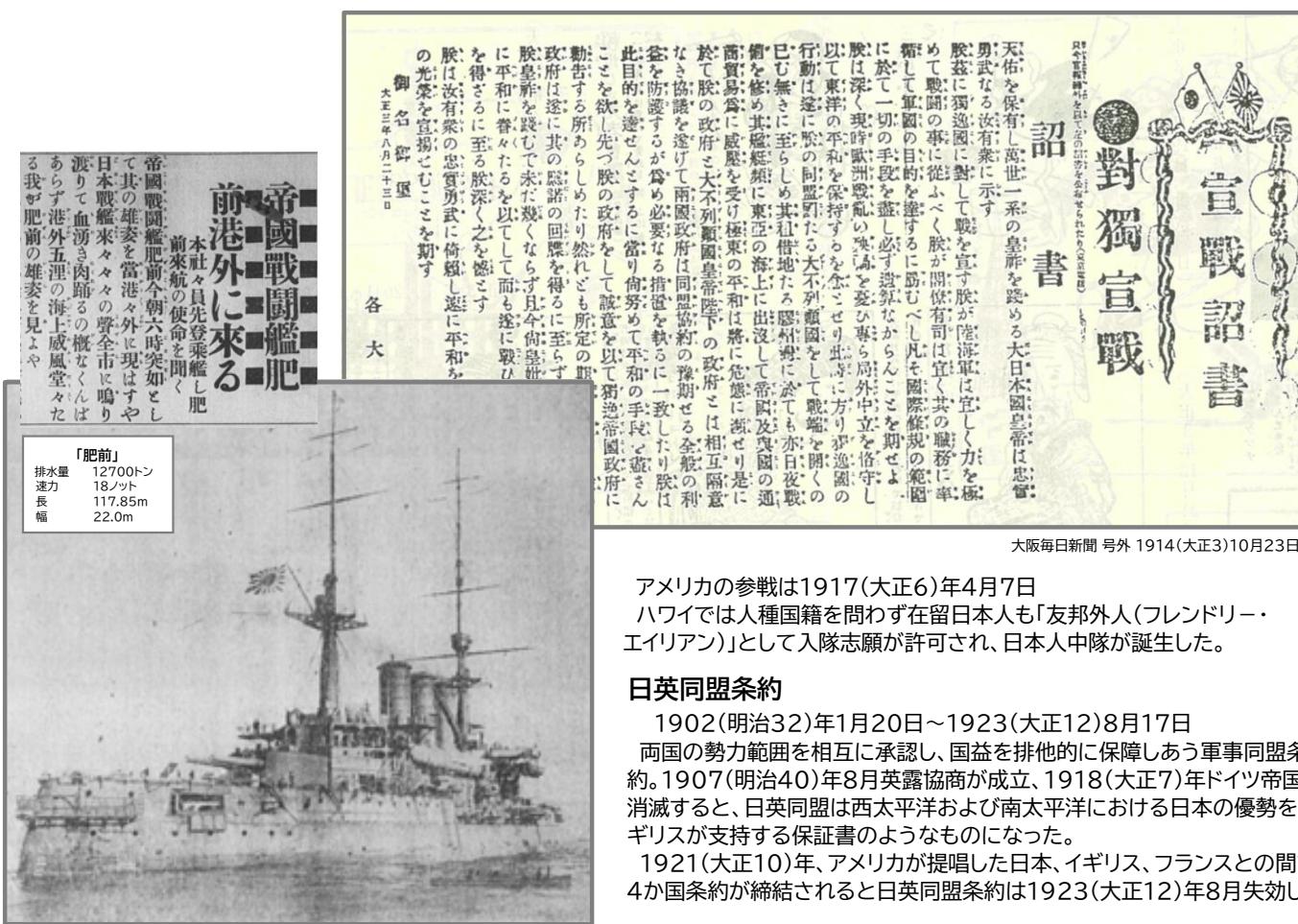
こうした中、10月21日、戦艦「肥前」が到着したが、交戦国という立場からホノルル港には入港せず、ホノルル沖合5マイルの公海上でガイヤー号の監視を始め、公海上で迎撃つ作戦を取った。同月30日には「浅間」が支援に駆けつけ、双方のにらみ合いが続いた。

11月8日、ワシントンの命を受けたムーア提督が武装解除を通告、「ガイヤー号」船長は何ら抵抗することなくこれに応じ、乗組員全員は戦争終結まで抑留された。

9日「肥前」はホノルル湾口に投錨。艦長は有田領事を伴い、ムーア提督、知事、税関長を表敬訪問し、翌日、沖合の「浅間」と合流して「太平洋方面警備」に赴いた。



資料④ 日本時事 1814(文政3)10月15日



資料⑤ 日布時事 1914(大正3)年10月21日

アメリカの参戦は1917(大正6)年4月7日

ハワイでは人種国籍を問わず、在留日本人も「友邦外人(フレンドリー・エイリアン)」として入隊志願が許可され、日本人中隊が誕生した。

日英同盟条約

1902(明治32)年1月20日~1923(大正12)8月17日

両国の勢力範囲を相互に承認し、国益を排他的に保障しあう軍事同盟条約。1907(明治40)年8月英露協商が成立、1918(大正7)年ドイツ帝国が消滅すると、日英同盟は西太平洋および南太平洋における日本の優勢をイギリスが支持する保証書のようなものになった。

1921(大正10)年、アメリカが提唱した日本、イギリス、フランスとの間で4か国条約が締結されると日英同盟条約は1923(大正12)年8月失効した。

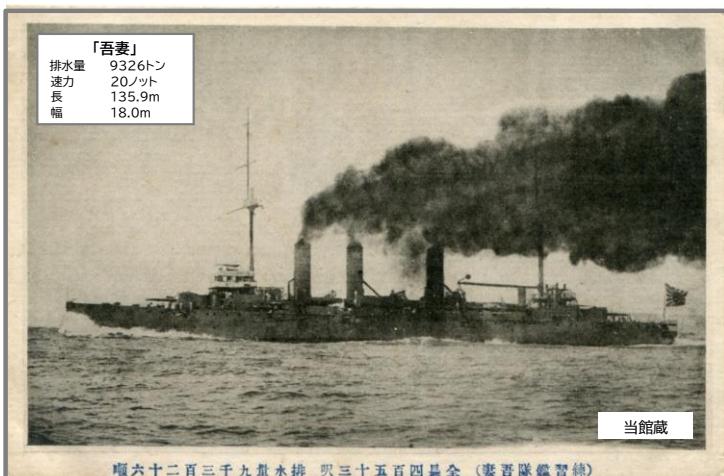
1917(大正6)年5月12日 軍艦「吾妻」

アメリカ駐日ガスリー大使遺体搬送のため、アメリカ本土に向う途中に寄港。

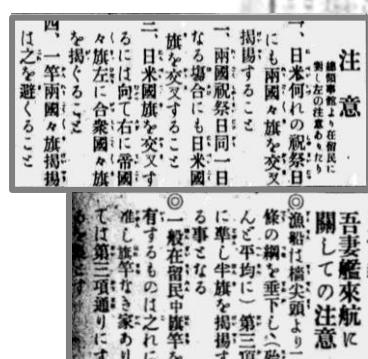
寄港にあたり、帝国総領事館は在留日本人に日米国旗の掲揚について注意を促し、特に漁船には、マストより2本のロープを下げ、右側には日本国旗を左側にはアメリカ国旗を半旗として弔意を表すよう具体的に示した。

1924(大正13)年にもアメリカ駐日大使の遺体搬送が軍艦「多摩」により行われたが、復路の寄港であった。

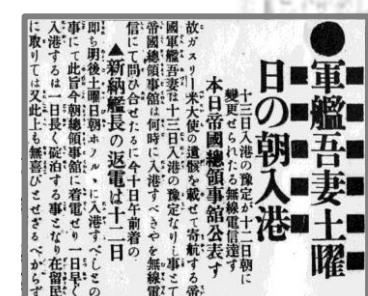
大正時代の日米間は緊密であった。



順六十二百三千九量水排 呉三十五百四具全 (吾妻隊監習練)



布哇報知 1917(大正6)年5月11日



布哇報知 1917(大正6)年5月11日



布哇報知 1915(大正4)年4月6日



資料⑥ 日布時事 1917(大正6)年5月12日

1915(大正4)年3月25日 F4号遭難

米海軍の潜航艇F4号がホノルル港外約2マイル地点で潜行訓練中、事故により沈没。同海軍は全力を挙げて捜索を開始したが、30日現在発見に至らず。乗組員の生存は絶望視された。

26日、パナマ運河開通式・パナマ太平洋万国博覧会に帝国政府代表者として参列して米国から帰朝中にホノルルに寄港した出羽重遠海軍大将は、遭難の報に接し米国海軍卿ダニエルにお見舞い電報を送った。

30日、ホノルルの日本人漁民は、「漁船を出動して支援したい」とムーア提督に申し出て、捜索活動に従事した。

4月1日、有田八郎領事は、横浜正金銀行に新聞社・経済界・宗教界の重鎮を招き、「日本人社会から義援金を募ることを決定し、100ドルを贈呈した。

4月16日、日本人商人同志会は別途「金50ドルを米国潜航艇F4号遭難救護会に贈る」ことを決定した。

1939(昭和14)年10月18日 練習艦隊「八雲」「磐手」

練習艦隊本土行を中止 寄港までの出来事

6月 1日 ハワイ米国海軍情報部発表『「八雲」「磐手」の両艦が10月18日ホノルルに、10月22日ヒロに寄港』

7月26日 アメリカ国務省 日米通商航海条約破棄を発表

9月 3日 英仏がドイツに宣戦布告

9月26日 ハワイ島の日本人に郵送された「日本の愛国国債」が押収される

9月28日 練習艦隊の本土行き中止を決定

アメリカが日米通商航海条約の一方的破棄を通告。英仏対ドイツの開戦。日本を取り巻く世界情勢の急変と確実に悪化の道をたどる日米関係を鑑み本土への遠洋航海を中止。航路を南方方面に変更して12月20日横須賀に帰港した。以後、アメリカ・ハワイへの遠洋航海は行われることなく、2年後の1941(昭和16)年12月7日(ハワイ時間)、日本軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争へ突入した。



<p>TAKARA-MUSUME Advertisements 1938 to 1939 山の瀬屋 ホノルル酒造製氷株式會社</p>	<p>歡迎帝國練習艦隊</p> <p>日本人理髮同盟會</p> <p>ホノルル市</p>	<p>歡迎帝國練習艦隊</p> <p>布哇福岡縣人會</p>	<p>歡迎帝國練習艦隊</p> <p>沖繩縣出身乘組將士歡迎會</p>	<p>練習艦隊乗組廣島縣出身將士歡迎會</p> <p>ワイキキヨシミ</p> <p>主金武村人會</p>	<p>主金武青年人會</p> <p>金武村人諸氏に謹告</p>	<p>親愛の情こもる挨拶</p> <p>皆さんの御發展振りを岩國に歸つた時に報告したい</p> <p>親愛の情こもる挨拶</p>
<p>り誇の土郷</p> <p>司令官歡迎會</p> <p>岩國町人會主催</p> <p>皆さんの御發展振りを岩國に歸つた時に報告したい</p> <p>親愛の情こもる挨拶</p>						
<p>に歸つた時に報告したい</p> <p>親愛の情こもる挨拶</p>						
<p>アイエア日本學校 樹 織田 博愛</p> <p>アイエア太平日本學校 吉 住 浩巖</p> <p>オアフ教育會</p>						
<p>歡迎帝國練習艦隊</p>						



軍艦・練習艦のホノルル寄港年表(特務艦を除く)

1876(明治9)年～1939(昭和14)年

太平洋戦争までにハワイ・アメリカに派遣された軍艦・練習艦のホノルル寄港は40数回に及ぶ。その役割として訓練、親善、居留民保護、警備、偵察などがあげられる。

寄港年月	軍艦・練習艦名	主な出来事
1876(明治 9)年 2月	①筑波	カラカウア王に謁見
1883(明治16)年 8月	②龍驤(りゅうじょう)	乗組員16人が脚気により死亡
1884(明治17)年 9月	③筑波	
1888(明治21)年 5月	④筑波	
1890(明治23)年10月	⑤筑波	
1893(明治26)年1月⑥・2月⑦・12月⑧	⑥金剛 ⑦浪速 ⑧浪速	⑦ハワイ王国政府崩壊による在留日本人保護
1894(明治27)年 3月	⑨高千穂	
1895(明治28)年 3月	⑩高千穂	
1897(明治30)年 5月⑪・7月⑫	⑪浪速 ⑫比叡	⑪日本人上陸拒否事件
1899(明治32)年 3月⑬・4月⑭	⑬千歳 ⑭比叡	
1902(明治35)年 7月	⑮金剛	
1906(明治39)年 9月	⑯姉川	
1907(明治40)年 2月	⑰練習艦隊 橋立・厳島・松島	
1908(明治41)年10月	米国大西洋艦隊寄港	
1909(明治42)年 4月⑯・11月⑯	⑱練習艦隊 阿蘇・宗谷 ⑯出雲	⑯サンフランシスコでのポーランド祭参列
1910(明治43)年11月	⑲練習艦隊 浅間・笠置	
大正	1913(大正 2)年12月	メキシコ在留日本人保護
	1914(大正 3)年 5月⑳・10月㉑	日英同盟によりドイツに宣戦布告
	1915(大正 4)年 3月㉒・ 4月㉓	㉒ドイツ軍艦「ガイヤー号」監視
	1916(大正 5)年 3月	㉔アメリカ潜水艦ホノルル港外で遭難
	1917(大正 6)年 5月㉔・6月㉕・7月㉖	ロシアよりアメリカへ金塊輸送
	1918(大正 7)年 5月㉗・8月㉘	㉗アメリカ駐日大使の遺体搬送
	1919(大正 8)年11月	㉙アメリカ参戦によりハワイ近海警備
	1920(大正 9)年 6月	マーン州合衆国加盟100年祭参加
	1921(大正10)年 9月	
	1922(大正11)年 7月	
	1924(大正13)年 2月㉚・8月㉛	㉛アメリカ駐日大使の遺体搬送
昭和	1927(昭和 2)年 7月㉜・8月㉝	㉞練習艦隊 磐手・浅間 ㉞練習艦隊 八雲・出雲
	1928(昭和 3)年 8月㉞	㉟軍艦 多摩
	1929(昭和 4)年 7月	㉟練習艦隊 磐手・浅間
	1933(昭和 8)年 6月	㉟練習艦隊 磐手・八雲
	1935(昭和10)年 6月	㉟練習艦隊 浅間・八雲
	1936(昭和11)年10月	㉟練習艦隊 磐手・八雲
	1939(昭和14)年10月	㉟練習艦隊 八雲・磐手

参考文献及び引用文献

布哇日本人発展史 森田栄・布哇日本人史 木原隆吉・日本人のハワイ 山下草園・日布時事布哇年鑑・帝国海軍写真と史実 海軍有終会

明治の海軍物語 中島武

大海軍発展秘史 広瀬彦太・外国軍艦の日本訪問に関する一考察 川井裕・明治海軍の三大航海から その2 大井昌靖・近世帝国海軍史要 海軍有終会

軍艦筑波－偉大なる航海－岡村健・戦前外務省記録 軍事、国防、教育、演習

協力

高山善裕 国立国会図書館・寺田稔 衆議院議員事務所・松木鶴美・中東靖恵・植田佳宏 広島県立図書館・岡村健・山本朝世 敬称略



発刊

語り継ぐ移民の歴史

A4判 247頁
定価 4,180円
(税込)

Amazonで注文できます
当館でも承ります